

……………留学生が特別寄稿……………

感謝と尊敬にあふれた 最終講義

ドイツから中央大学に留学中の2人が、山内惟介教授の「最終講義」の感想を本誌に寄せた。筆者はルカ・ベロッチィさんとカロリン・ロストさんだ。



カロリン・ロストさん



ルカ・ベロッチィさん



最終講義の山内教授

2017年1月19日、法学部の山内惟介教授の最終講義が中央大学で行われた。山内教授は中央大学で大変に敬意を集めている教授であり、そのため最終講義は多くの同僚教授や学生諸氏で盛会だった。



塩満さんによるアルパ(インディアンハープ)の演奏

最初に中島康予法学部長の挨拶、次に明治大学のメンクハウス教授の祝辞があり、その後に、カラフルな伝統民族衣装に身を包んだ中央大学卒業生の塩満友紀さんにより、アルパで感動的な楽曲が演奏された。音楽に続いて山内教授による最終講義が始まった。

講演の中で山内教授はこれまでの自身のキャリアの幾つかの点にも立ち入った。講義ではドイツのミュンスター大学にも触れられ、ザンビアが訴えられた紛争等が取り上げられた。

長く鳴りやまない拍手を伴って講義が終了した後、質疑応答が続けられた。[日本語だったため]全て理

解できたわけではないがそれでも察知できたのは、この場で山内教授が多くの感謝と尊敬の念を注がれていたことだ。全体としてとても素晴らしい催しだった。

身振りや表情から見て取れたかぎりでも、大いなる感謝と謙遜と称賛によって刻印されていた。外国留学生の私達にとって二度とない興味深い経験だった。

ドイツ・ミュンスター大学
University of Münster 交換留学生
Carolin Rost(カロリン・ロスト)
Luca Bellotti(ルカ・ベロッチィ)
2017年1月31日記